

八戸 SDGs 健はちグルさんぽ ～種差海岸コース～

八戸商業高校 商業科3学年

1 研究テーマの設定理由

青森県は平均寿命が全国で最下位という現状があり、地域の健康格差が広がっていると感じた。そこで、観光スポットを巡りながら楽しく体を動かす取り組みを行うことで、市民の健康への意識を高めたいと考えた。また、ゲーム感覚でSDGsを学ぶ活動も取り入れることで、楽しみながら理解を深められ、地域の活気づくりや産業の活性化にもつながると考え、これを研究テーマとして設定した。

2 仮説

- <仮説1> 散歩コースを作成することで八戸市民に運動習慣が身につくのではないかな。
- <仮説2> 観光スポットを巡る取り組みにSDGsを組み合わせることで、SDGsへの理解が高まるのではないかな。
- <仮説3> ゲーム感覚で楽しくSDGsを学ぶことで、より理解が深まるのではないかな。

3 実践

①調査方法

- ・SDGsの理解度を調べるために、各学年1クラスずつ計80人にアンケートを実施。
- ・八戸市役所政策推進課の方々と協力し、「SDGs de 地方創生」のカードゲームを行い、参加者にアンケートを実施。
- ・観光スポットを巡る活動では、「健はちプラス」のアプリを活用し、歩数を記録。

②実践内容

- ・葦毛崎展望台や種差海岸などの観光スポットを巡り、楽しみながら運動習慣の向上を目指した。
- ・海岸を散策しながらゴミ拾いを行い、ホロンバイルやミチル種差で食レポを実施し、その様子をInstagramに投稿した。
- ・八戸市役所政策推進課の方々とともに、「SDGs de 地方創生」のカードゲームを体験し、SDGsへの理解を深めた。

4 今後の展望

今後は、観光スポットを活用した健康づくりの取り組みを、地域住民が継続して行える仕組みへと発展させていきたい。楽しみながら健康意識が高めるとともに、SDGsの理解促進や地域の活性化にもつながる取り組みを目指し、誰でも参加しやすく、続けやすいモデルづくりを進めていきたい。

5 活動から学んだこと

観光スポットを巡りながらの活動や、ごみ拾い、食レポのSNS発信を通して、私たち高校生の発信が地域の健康づくりや魅力発信につながることを実感した。

また、日常の小さな行動がSDGsの目標達成につながることを体験的に学び、自分たちから行動することの大切さを理解した。さらに「SDGs de 地方創生」のカードゲームを通して、人口・経済・環境・暮らしのバランスをとる難しさや、行政と住民が協力して地域を支える重要性を学び、地域をより良くするための考え方が深まった。